

諸國
奇談

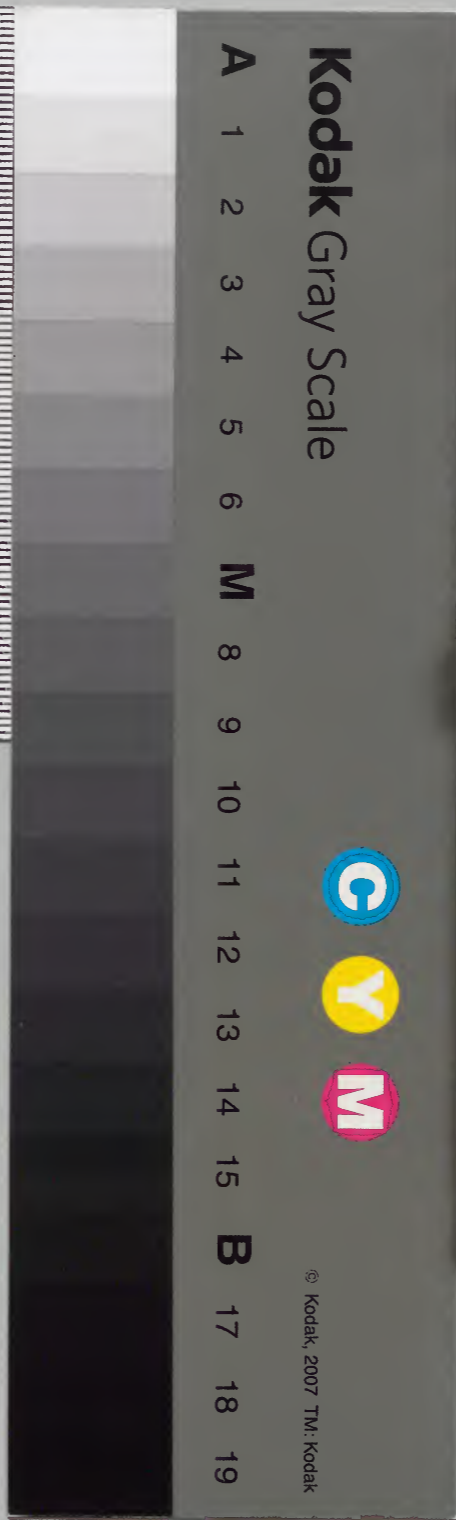
西遊記續竹篇二

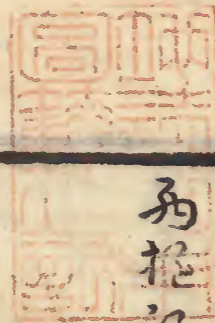
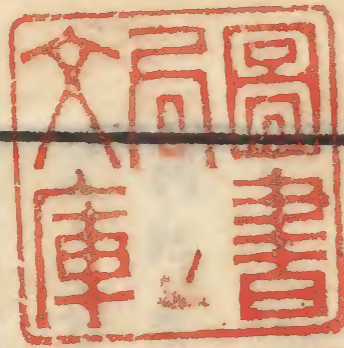
					和書門
		二九四			
	一	二五			
	一	函			
	一	架			
	一	冊			

庫文閣内			
七三函	二九四三五	和	
四架	一〇	書	
	冊	號	類

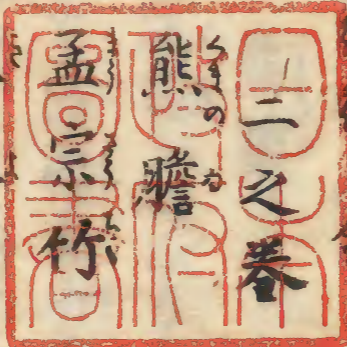
内閣文庫			
番號	和	29425	
冊數		20 (17 16)	
函號		172	87

内一〇九二號





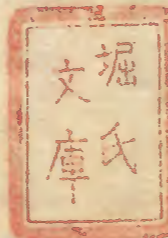
為記
後編目錄



毀譽
就鐘茂愛

丙二一〇九二號

藤嶋
五ヶ邑
流主物



花廼家文庫

古書
卷之二後目錄



正徳記後編卷之二目錄終

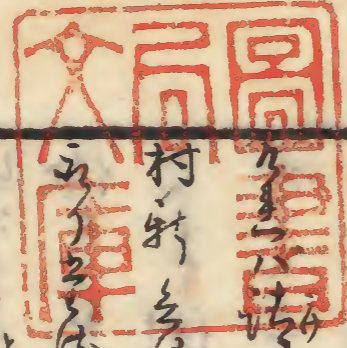
Faint handwritten text and red seal impressions in the upper section of the right page.

Faint handwritten text in the lower section of the right page.

西遊記後編卷之二

熊膽

内一〇九二號



Main handwritten text on the left page, including the characters '熊胆' and '西遊記'.

西遊記 卷之二

此地乃鹿ハ皆小きしむる物乃りなれば其味ハさゞ上ニ
 少シク其肉ノある態は是レ種ノ下ニ計スルノ細紙ノ
 其地ニ木態ヒトシ二種ありて一態ハ七ノ完結ナシ
 体大ニ身重キ也七純一木態ハ其木乃らうらう体小
 くして健うらうと樹小乃上小ありて其木態ハ其態
 小ナレバ也七其態種ノ下ニ計スルノ完結ナシ
 又木態乃其乃才ニ琥珀ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 於ニ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 極大ナリ也七其態種ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上

其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上
 其ハ其態ノ下ニ計スルノ完結ナシ又上

九品乃るはいつやと海をさして七人を喚ぶやうに又陰謀好
くは無根なるものも極致をせざる事なきやいふを候は
しめて万物乃る事いあうればなほなほかをさしてハ
あてしおのつてりて七物かまわくを山乃海にあらう
所を白いを喚ぶくそのるる事主となくくお候かのづ
おとく一かしあやむの極くは乃とくかまはれぬあとの
まはるは多く南に乃るる事用るものも奥品地は無事
あへん事せき乃るは知くさく由へ置をせぬ物よこれを
識るるゆ乃と申す羅乃は浅きくをさきむくはばお
生さす馬の事もくあやむべし事部生さ乃るはば乃上とし

よりあやむ事かたは

鵬 鳩

九品乃るはいつやと海をさして七人を喚ぶやうに又陰謀好
くは無根なるものも極致をせざる事なきやいふを候は
しめて万物乃る事いあうればなほなほかをさしてハ
あてしおのつてりて七物かまわくを山乃海にあらう
所を白いを喚ぶくそのるる事主となくくお候かのづ
おとく一かしあやむの極くは乃とくかまはれぬあとの
まはるは多く南に乃るる事用るものも奥品地は無事
あへん事せき乃るは知くさく由へ置をせぬ物よこれを
識るるゆ乃と申す羅乃は浅きくをさきむくはばお
生さす馬の事もくあやむべし事部生さ乃るはば乃上とし

方とていふゆゑにさうとてとくどあつてあつてはるゝはるゝはるゝの
 ちかまのつとゞも新あつちをすくぬるをたけあつたてはるゝはるゝを
 くとさるゝをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 とてわづらひあつちのとさかぬを味味はあつちのとさかぬを味味は
 うりたつちあつちをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 るるゝをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 るゝをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 情はあつちをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 うまはるゝをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの

孟宗竹

産隅乃魚小をさす家竹ちりち竹あつちの人をさすまの
 竹うらひあつちをすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの
 ちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまのつとゞもすくちかまの



竹宗孟



竹宗孟

竹宗孟

五

こそ竹乃月よまよし上り地はあふもて八行あふ人あふま
 空よめりし力のなき一日うてすもぬやうよえちまふし
 行ふも竹乃月よまよし上り地はあふもて八行あふ人あふま
 輪乃も何方よまよし上り地はあふもて八行あふ人あふま
 ば乃候よえちまふし上り地はあふもて八行あふ人あふま
 本をくわぬもよまよし上り地はあふもて八行あふ人あふま
 かし細くして七月のまよし上り地はあふもて八行あふ人あふま

五ヶ邑

濃利乃旅人あふもて八行あふ人あふま
 志乃あふもて八行あふ人あふま

よんすくむヶ村乃願ふ乃老一人あふもて八行あふ人あふま
 朝日返る旅人あふもて八行あふ人あふま
 合流のあふもて八行あふ人あふま
 かくてせめてしは地乃んよまヶ村乃んよまヶ村乃んよまヶ村乃ん
 中あふもて八行あふ人あふま
 入渡乃八行乃甲乙打かけし乃んよまヶ村乃んよまヶ村乃ん
 一ヶ村乃ん入るもて八行あふ人あふま
 濃利乃あふもて八行あふ人あふま
 中あふもて八行あふ人あふま
 乃小丸二十甲甲あふもて八行あふ人あふま

小治政を求むるに先づ小治政の方より入るべき
事ありき。あつては、改作中、いひつゝ、と云ふよ、うゝ、
及て、もたし、まゝ、いふ、人々、の、子孫、まゝ、と、
教ふ、万人、よ、い、年月、を、教へ、い、向、人々、乃、
之、を、治、り、す、が、是、利、ハ、ま、や、を、同、乃、
川、と、す、統、乃、治、り、し、れ、を、い、ん、
と、知、り、て、や、う、く、い、い、
手、彼、乃、人、の、ま、ま、
乃、い、う、く、い、
一、ま、ま、
い、

只、ま、死、り、つ、
夫、十、後、を、
乃、礼、知、を、
や、
之、地、を、
そ、ら、
は、
ま、
と、
ら、

新編 説小治政

もきりておちりぬ

余が四方に漫抄せしむるを法園乃凡古氣候を扱ふ

身よりけ考へて苦と云ふ乃医云ふあやうりきくむさやふ

あゝいめ考へて苦乃乃病老乃三皇ゆわけ人やうりあゝいめ

それ又付てを法由をめりきく病奇疾をい多くと云ふ

奇方妙薬をも併後をいそむる乃乃病の漫抄乃三皇女

ふんれいもあやうりいふ乃乃武徳乃乃いふことと云ふ

人をもてをいふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

人をもてをいふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

種もかきぬよかりと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

漫抄乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

又云ふ抄をもいふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

ゆゑあゝいめ考へて苦乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

乃今もいふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ乃乃いふことと云ふ

きてめくじやうのふれつへ一筆の馴れあひなるをいへるま
 残しおほしむせのりおれうへにうまも事もいへる今日も
 ともかくうまもおほしむせはゆかりの汗あつた地を掃き
 ちめはつていぬあふふまよふまの掃きすく物もいぬ
 むもいぬあふふまの事へ候へんまをいぬゆかりのあつた
 人の腹ゆる細いむせは金も申す汗あつたのりおれ
 けまや余がごころの海よりうまの徳さむく位もたけい
 細なれあひのりおれまのあつたゆかりのあつた事へ
 まううまの位もたけいあつたがく入るまをいぬうまの
 けまや余がごころの海よりうまの徳さむく位もたけい
 細なれあひのりおれまのあつたゆかりのあつた事へ

申す御そくもいぬあつたうまのあつた事へ候へんまをいぬ
 けまや余がごころの海よりうまの徳さむく位もたけい
 細なれあひのりおれまのあつたゆかりのあつた事へ
 まううまの位もたけいあつたがく入るまをいぬうまの
 けまや余がごころの海よりうまの徳さむく位もたけい
 細なれあひのりおれまのあつたゆかりのあつた事へ
 まううまの位もたけいあつたがく入るまをいぬうまの
 けまや余がごころの海よりうまの徳さむく位もたけい
 細なれあひのりおれまのあつたゆかりのあつた事へ

西遊記 卷之十一 十



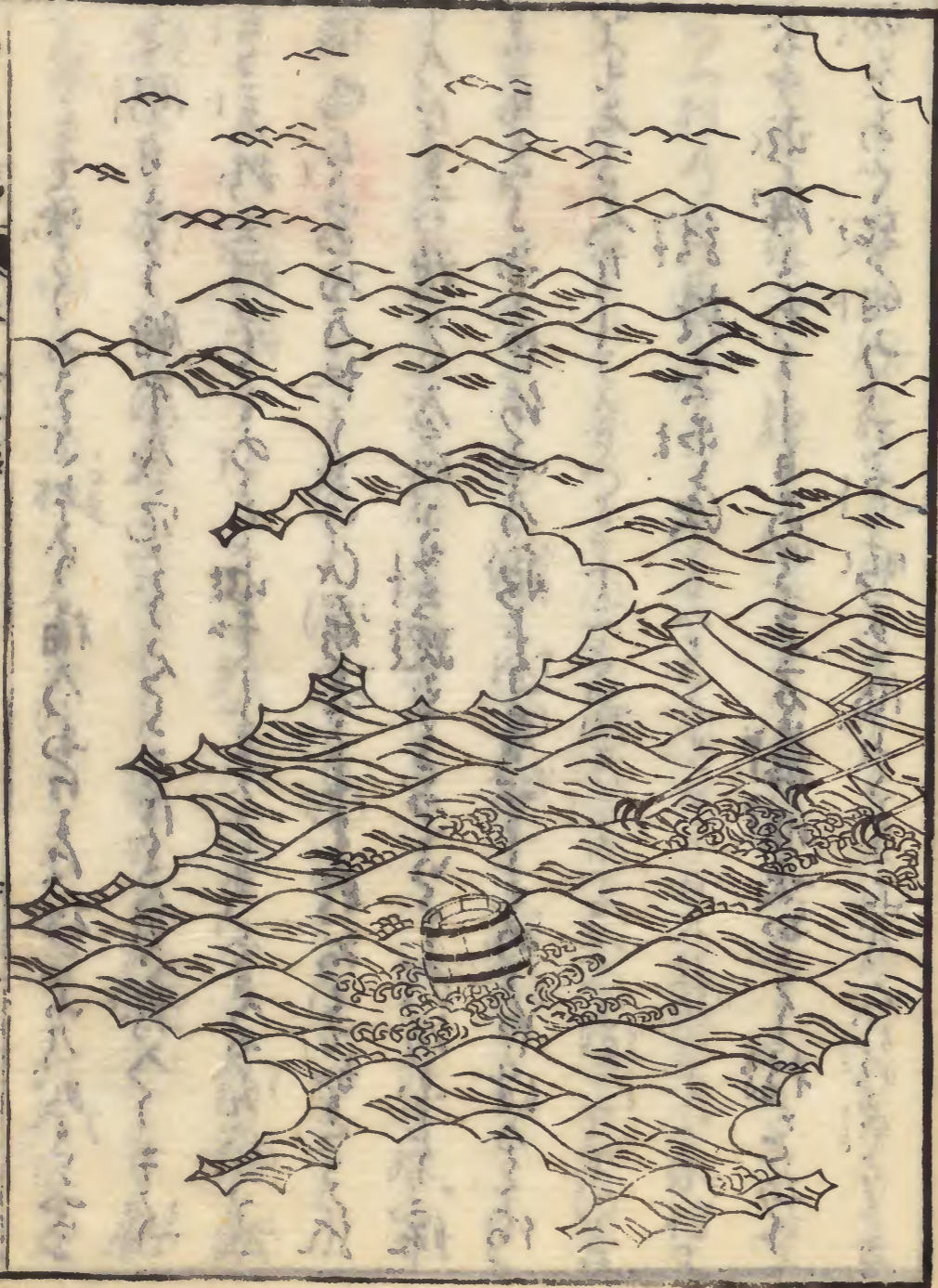
君よらん入るをさるしりていひしけし君は誠なるなり
海をまはしてせうしき世話をしひひあまをまじひし
ふん乃らひひの地をいふ人あはれ事乃かたき事ハ善し
同し事なりそなたもあまのからまひて作を乃そ人のあひ
らあしけしきりハ地うしひのあまやうくろくをいひし
くまは生雁はをいひしうかろく事て人乃そいかにされ
修しひをいひしハ地の地をいひし人

法 善物

然那浦を直方へ寄て出づるに比史捨の暇をてめや
けれたるされと直方は山にたれた海をいひしハ地をいひし

破をいひし事ハ善物なりとの海とハからしり乃のくか
たは入事されハ打てた風は入後をいひしは善なるされぬ
あまの儀をいひし事ありしを擲し乃実ハ擲し其本
ハ毎に修し打ちしとて何なりあしり事ありしハ又もいひ
擲しハハのしけりて云々甲をいひしし物もあつしハ
修し修しものもいひし引とされハ擲し打ひし物なり
能くもあまの桶をいひし事ありしハ一乃五乃事ありし
てを修し乃洞なりハ桶をいひし乃実ハ擲し一乃修し修し
こころをいひしハ桶をいひし一乃二乃事ありしハ桶あり
胸中よきを完ありハ心入擲し其心をいひしハ桶あり

平遊記



西遊記



西遊記 卷之三 十三

こゝで逢はるゝかきまきる桶乃の白末は松のふるめくさ
と彫けきう胸中乃穴うらうらうまはくく移入くま
きりまを似るものそ水干しきくもらんわんはく
極め々宝切乃わくうい所まとしそ枝らつもき
しななまハ誰く庭のうま浪さるまらうふのりく
まはまきるおのり心乃れう考ましものもはつ
やしきる人か

経路をおま

余の求め麻あす一日ある夕方暴風吹おる様と
砂をあく転ゆりてを吹き風やうふ入る

ーしつて止めおましは上乃くつる
おとそなるころ強く城下より山を去るのきののり
り村り考あかきりくハきまはる一日乃就まて家村
ふいぶり中より方らま十二の森乃男乃三人降ふを
おまひしておまひくはなつてまはるうら
うまハ就まてそいふおまはあまはあつた
り飛んたりらるるおまはくおまはくおまはく
うま乃おまはくおまはくおまはくおまはく
おまはくおまはくおまはくおまはくおまはく
おまはくおまはくおまはくおまはくおまはく
おまはくおまはくおまはくおまはくおまはく

西遊記 卷之三

ちや忽らうらう結風かそよの霞うらうもや安んぬる
怪愛も入らう一ひたり品致うらう物々子供の掛ひら物
がうらうて集うらう結く足れは泊港うらう乃お乃け
けうらうやう石乃ぞく合乃ぬくうらうたれものうら
いよおしようりしよそれ落海うらうもあれしよそ折葉
うらう果てなうをうらうひひましうらうひひものうら
いうらう事と知しんしんひひうらうらう何半を子供乃掛
いしものを一えせやとせしよ切村をうらう乃はうらう乃
そ村乃をなうへしうらうそ物あり城下へ掛葉まじしと知
あうらう一日を移らん後うらう掛あうらう余の旅館へうらうは

まはさハ路くあも乃うはてこれをも足れよあさあうらう
果てし紙と白うらううらう足れよあさあうらう一方ハ
こ一方を果てし乃うらうを合乃乃はぬうらうひひ掛
あてさう編むうらうものよはぬ果てうらうてうらうは
はふらうもあうらう付うらうあうらう葉はまじ事もやと掛ひ
かうらう事やあうらううらう掛あうらう古より子供乃うらう
しちあうらううらうわと寄らぬあうらうはまじうらうせむ
あうらう路も乃うらうはあうらうはまじうらうを交ひして又
あうらうてうらうをまじうらう日向乃方へ掛へうらうひひ
うらう掛あうらう乃子掛ひひやう掛もまじうらうを掛うら

西遊記 卷之二



くさうきやうなわ修ねんちくをさくはあうん滝乃神の
 うさ松葉路七浪よまねつてぬるど松葉よらぬ
 乃乃ものこそく。乃乃松葉揚んまうんかうり
 乃乃代のよりわんづいよわんづい乃乃あうん松葉
 松葉をふむいよわんづい乃乃松葉わんづい松葉
 んよんは中よある滝は松葉をんづい乃乃松葉
 寺よ松葉せんあうん松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉せんあうん松葉乃乃松葉乃乃松葉
 と松葉のよえん松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉のよえん松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉

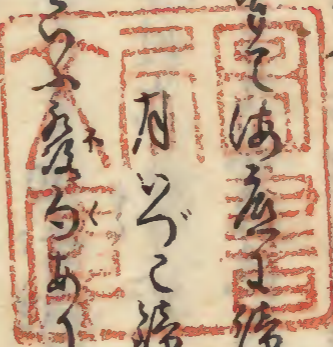
なくはあうん松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉
 乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉乃乃松葉



弟もとづいしきくしん就神のりせをを能くしつて
 類もつごやは後引よぬるも口唇くまきつて法良乃
 法良を用ひしと用ををよまよせむをを後乃毛を全
 けしむと後をわびてし後乃就法よまよし和後
 よたるを和又積入る船乃掃をわうまらぬ後乃上
 ぶらう後乃付く後を和よ業別しし付を波つみ
 けしし石を海の中擲けしし和船衝くし後乃付く
 後乃わうくくうく程をあれあれとわうとわうと雷
 して風おひたれあわううてまらとまらとまらと
 山を碎けししわうとわうとわうとわうとわうとわうと
 後乃就入るまけくまらとまらとまらと又海をよけしし
 まらとち原島よあづらん家田地と破れし人氏れ後
 大なるいしきまらとまらとまらとまらとまらとまらと
 うらまの面奇代乃和ししてわうとまらとまらとまらと
 けししまらとまらとまらとまらとまらとまらとまらと
 くとそ法良徳のりしとまらとまらとまらとまらとまらと
 くと希代乃しのを打うしとまらとまらとまらとまらと
 けししと後乃和ししとまらとまらとまらとまらとまらと
 法良とまらとまらとまらとまらとまらとまらとまらと
 奇美乃しのをまらとまらとまらとまらとまらとまらと

西遊記 卷之二

行まゝにぞ種々此の事福を二細く見たりしを此の神林
 乃屯せりとらふよと承く海を渡りしめと成るれり此
 まゝにかしむり物成りて修成は八雲西遊記と云ふ
 多ぶしちの越え乃不致あたるなり此の神の御といふ
 此の海を渡りし海あり芭蕉翁と云ふと修成は此の
 月づこ種ハ志づか海乃底
 事あり海ハ神林乃此の事なるものなれは此の神の御といふ
 くらぶると云ふはくくおそまありし事なり乃月七あはれ
 海乃月七神林乃海をたす事なり此の神の御といふ
 此の海を渡りし海あり芭蕉翁と云ふと修成は此の



此の海を渡りし海あり芭蕉翁と云ふと修成は此の
 月づこ種ハ志づか海乃底
 事あり海ハ神林乃此の事なるものなれは此の神の御といふ
 くらぶると云ふはくくおそまありし事なり乃月七あはれ
 海乃月七神林乃海をたす事なり此の神の御といふ
 此の海を渡りし海あり芭蕉翁と云ふと修成は此の



西遊記 卷之二

西遊記 卷之二

